



TOYO
ENGINEERING

2022年3月期 第2四半期決算 経営方針

2021年11月11日
東洋エンジニアリング株式会社
取締役社長 永松 治夫



本日の内容

1. 上期業績(連結)
2. 進行中の主要プロジェクト一覧
3. 下期受注見通し
4. 中期経営計画 (2021~2025)
2021年9月末時点進捗状況

1. 上期業績(連結)

売上総利益で47%、営業利益で92%の進捗率。受注高は年度目標の半分弱を達成

単位：億円	2021/9/30実績	通期見込	進捗率
売上高	975	2,400	41%
売上総利益	107	230	47%
売上総利益率	11.0%	9.6%	—
販管費	83	205	40%
営業利益	23	25	92%
営業外損益	△0	—	—
経常利益	22	25	88%
親会社株主帰属当期純利益	14	15	93%
受注高	1,220	2,800	44%
受注残高	3,329	3,506	—

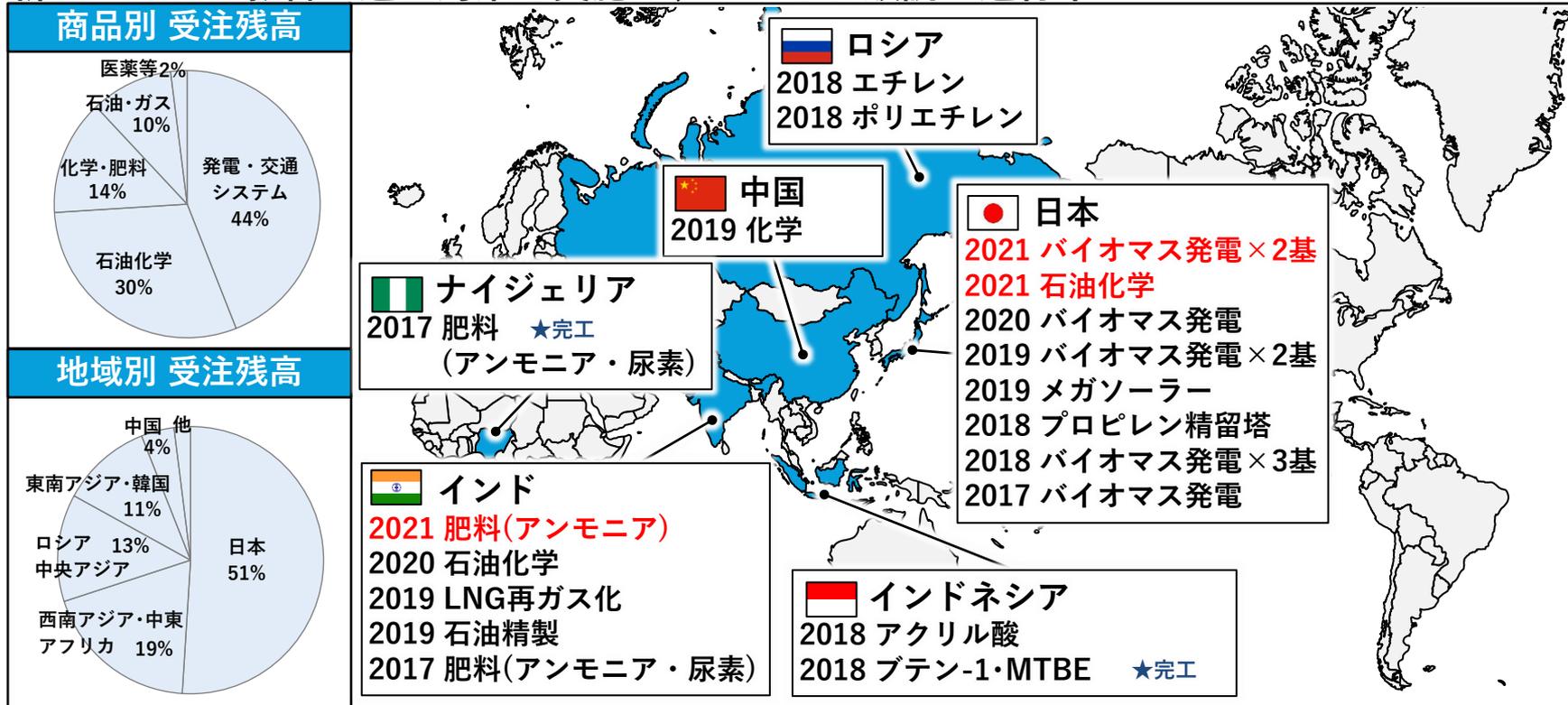
配当：無配予定

2022年3月期の前提為替レート：113円/USドル

2. 進行中の主要プロジェクト一覧

商品・地域で分散されたポートフォリオを形成

新型コロナの影響：適宜対策を実施し、おおむね順調に進行中



3. 下期受注見通し

受注目標 2,800億円（上期実績：1,220億円）

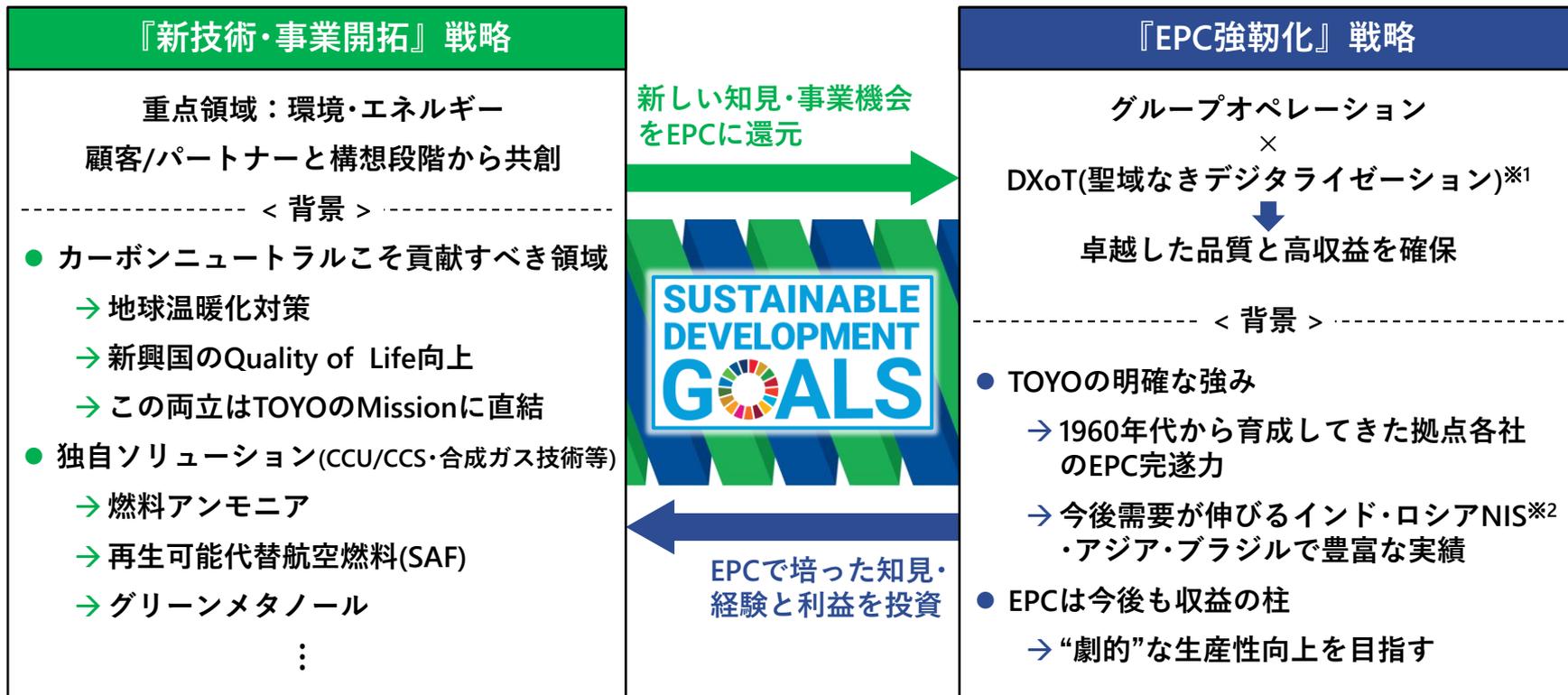
既存事業領域		新規事業領域	
事業領域	主な受注見込案件	事業領域	主な受注見込案件
化学・肥料	<ul style="list-style-type: none"> ● アンモニア（中東） ● 化学品（中国・東南アジア） 	循環型 低環境負荷	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃PETリサイクル（日本）
石油化学	<ul style="list-style-type: none"> □ 石油化学品（中国） 	CO ₂ 利活用 /省エネ	<ul style="list-style-type: none"> □ CO₂回収・利活用検討 □ 省エネ・GHG排出削減サービス HERO（東南アジア）
石油・ガス (FPSO等)	<ul style="list-style-type: none"> ● FPSO ● 石油精製（インド） 	次世代 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> □ 燃料アンモニアFS □ アンモニア受入設備検討（日本）
発電 (再エネ・ガス火力)	<ul style="list-style-type: none"> ● バイオマス発電（日本） ● 地熱発電（東南アジア） ● ガス火力発電（南米）※ 	資源・エネルギー 安全保障	<ul style="list-style-type: none"> □ 海洋鉱物資源（日本）
交通システム	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道（東南アジア） 	Quality of Life	<ul style="list-style-type: none"> ● 先進医薬品（日本） ● 高機能化学品（中国）

● EPC □ 非EPC

※ 持分法適用会社による案件

4. 中期経営計画(2021~2025) 2021年9月末時点進捗状況

新技術・事業開拓とEPC強靱化の両輪で、地球と社会、自らのサステナビリティも実現



※1 : Digital Transformation of TOYO

※2 : New Independent States (ロシア及びバルト3国以外の旧ソ連の新興独立諸国)

4. 中期経営計画(2021~2025) 2021年9月末時点進捗状況

新技術・事業開拓戦略

重点事業領域	進捗
1 循環型・低環境負荷	<ul style="list-style-type: none"> ● ごみ由来のエタノールを原料とするエチレン製造パイロットプラント受注
2 CO ₂ 利活用/省エネ	<ul style="list-style-type: none"> ● 木質バイオマスからのSAF製造実証、サプライチェーン構築検討 ● SAF製造を中心としたCO₂資源化検討 ● 省エネ・GHG削減サービスHERO受注 (<i>SUPERHIDIC</i>[®] ライセンス込)
3 次世代エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ● 東シベリア - 日本間の燃料アンモニアVC事業化調査フェーズ2開始
4 資源・エネルギー 安全保障	<ul style="list-style-type: none"> ● レアアース泥回収用機器製作業務受注
5 Quality of Life	<ul style="list-style-type: none"> ● 高機能化学品プラント受注

カーボンニュートラルへ

4. 中期経営計画(2021~2025) 2021年9月末時点進捗状況

EPC強靱化戦略

進捗

グループオペレーション
の深化

- ナイジェリア肥料プラントの早期運転開始(Toyo-Japan・Toyo-India)
 - アンモニアプラント受注(Toyo-India)
- ⇒Toyo-Japanからのノウハウ移管により拠点中心のオペレーションへ
Toyo-Indiaはローカルニーズ対応に加えて、グローバル全般の中核拠点へ

DXoT
2025年に生産性6倍

- 生産性向上のための業務改革とシステム開発※を継続し、プロジェクトへの実装を順次開始
 - HEROZ株式会社と業務提携し、AI技術を活用したコンストラクタビリティに関するリスク検知のプロトタイプ完成
- ⇒リスクマネジメント高度化、工数削減、トラブル防止などによりプロジェクトの利益向上へ

4. 中期経営計画(2021~2025) 2021年9月末時点進捗状況

KGI(Key Goal Indicator)

目標	2021年度 上期実績
連結当期純利益 <ul style="list-style-type: none"> ● 23~25年度平均50億円以上 ● 2030年度 ⇒ 100億円 	14億円 (通期15億円見込)
連結売上高 <ul style="list-style-type: none"> ● 売上規模より利益を重視 ● 売上高の目安は3,000億円 	975億円 (通期2,400億円見込)
ROE <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年度 ⇒ 10%以上 ● 以降安定的に10%以上 	— (通期3.6%見込)
配当 <ul style="list-style-type: none"> ● 中計期間内での復配を目指す 	—

KPI(Key Performance Indicator)

目標	2021年度 上期実績
非EPC※1粗利構成比 <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年度：25%以上 ● 2030年度：50% 	34%
新規事業領域粗利構成比 <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年度：25%以上 ● 2030年度：50% 	17%
主要拠点粗利構成比 <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年度：45%以上※2 ● 2030年度：50% 	51%
従業員満足度 <ul style="list-style-type: none"> ● 前年度より向上 	下期に調査を実施予定
従業員数 <ul style="list-style-type: none"> ● Toyo-J： 新技術・事業開拓人財を倍増 ● 拠点各社：需要に応じて増減 	約100名規模で変わらず グループ総数5,500名規模維持

※1：非EPC=EPC/EP Lump-Sum案件以外

※2：TSPI(ブラジル) は持分法適用会社のため含まない



東洋エンジニアリング株式会社

URL <https://www.toyo-eng.com>

【お問い合わせ】

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 2-8-1

広報・IR部長 白石 義文

電話 047-454-1681

E-mail ir@toyo-eng.com

本資料に記載されている見通しや業績予想などのうち、歴史的事実でないものは現在入手可能な情報から得た当社の経営陣の判断にもとづき作成しております。実際の業績は、当社の事業領域を取り巻く国内および海外の経済・金融情勢等、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となりうる事をご承知おきください。